

---

# 木漏れ日の下の笑顔模様

一河善知鳥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

木漏れ日の下の笑顔模様

### 【Nコード】

N6828B

### 【作者名】

一河善知鳥

### 【あらすじ】

彼とあたしはずいぶんと面倒なことが嫌いだから、日々は平坦かつ単純。だけど、たまには流れに逆らうことも、信じてあげられればできるんじゃないかな。

「ねえ、知ってる？」

「うん、知ってる」

「…それじゃあ、会話、終わっちゃうじゃんか」

「だって、急に、『知ってる？』って聞かれてもなあ」

「あのね、それはね、『何を？』って聞き返してくださいっていう、  
合図なの」

「ああ、そうなの」

「…冷たい…」

「何を？」

「え？」

「だから、何を知ってるって？」

「やっぱり、いいよ」

「なんだそれ」

「あたしら、ぜーんぜんうまくいってないよね」

「うん」

「だってさ、会話一つうまくいかないじゃん…」

「うん」

「君、あんまり、…楽しそうじゃないし」

「…まあ、そうだね」

「いいの？」

「うーん…」

「なにそれ」

「じゃあ、そっちはどうなの？」

「うーん…」

「なに、それ」

「だってさ、やっぱり、あたしは…」

「うん」

「あたしは、なんかよくわからないけど…なんていうか、その—」

「なに？」

「困る」

「……そっか」

「なんでだろうね？」

「さあ？ でも、俺はさ」

「…君は？」

「困る」

「…だよね」

「なんでだろうな」

「なんでだろう」

「うーん」

「…あ。もしかしたらこういうことかも」

「どういうこと？」

「こう。あたしの手の上に、君の手。それで、とじる」

「…手、小さい」

「…だけど、温かいでしょ」

「そうだなあ」

「…ねえ、知ってる？」

「ああ、知ってるよ。俺も…好き」

「うん、そうだよね」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6828b/>

---

木漏れ日の下の笑顔模様

2010年10月16日02時01分発行